

# 2023年度 自己評価・学校関係者評価報告書

2024年2月

玉川小羊幼稚園

## 1. 本園の教育目標

- ・子どもたちの心の目になって豊かな対話を創り、子どもたちが自ら育つ主体性を育む。
- ・子どもたちの遊びを深め、広め、高めて、子どもたちが自ら好奇心を持って探求し、友だちと楽しく学ぶ力を育む。
- ・子どもたちが様々なものに出会う行事やわくわく体験を創り、子どもたちの生きる力、友だちとの絆を築くように育む。

## 2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

実践を通して、子どもたち一人ひとりの園生活がいきいきと豊かなものになるように取り組む。

## 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	対話	B	対話とは何かを考え、意識をして保育に取り組んだ。また、対話が生まれる方法についても教師間で話をしたりして保育を進めた。対話する保育を十分に理解した上で、引き続き保育に取り入れていきたい。
2	記録や研修	A	夏の研修にそれぞれ参加し、学びを分かち合った。行事・園活動の見直しもできた。毎週保育を振り返ってエピソードを分かち合う時も持った。
3	キリスト教主義教育保育	B	毎日の礼拝を通して子どもたちにキリスト教保育を行うことができた。キリスト教保育は人生の根を担っていると捉え、礼拝等で喜びや希望を得られるよう努めている。さらに教師も学びを深めて子どもたちに伝えていきたい。
4	環境教育	A	この一年の環境教育を通して、子どもたちが自ら発見する力が育まれた。年少は初めての自然との出会いを経験した。年中は経験の積み重ね、年長は自ら自然や環境に働きかける姿が見られ、三年間を通しての学びや成長が見られた。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

#### 4. 総合的な評価結果

評価	理由
A	全体を通して子どもたちの学びを深めたり様々な経験をする力を育む保育を行うことができたと思う。今後も教師同士が学びを深め合い、子どもたちが自ら行動を起こすような環境や教師の在り方について考えていきたい。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

#### 5. 今後取り組むべき目標とそのための課題

子どもたち一人ひとりの園生活がいきいきと豊かになるように目指す。そのため、子どもたちだけでなく、教職員も共に成長することを目指す。ついては、以下のことを充実させていきたい。

	課題	具体的な取り組み
1	対話(子どもの声を聞く)	“子どもの声を聞く”とはどういうことかを書籍や研修を通して学び、保育の中で実践していきたい。
2	キリスト教主義教育保育	キリスト教の幼稚園として幼稚園教育の現場において何ができるのか、考えたい。
3	指導計画の作成と評価	教師間で日々の計画や行事の指導計画を見合い、指導計画の改善を図る。互いの保育を見て、学び合いたい。

#### 6. 学校関係者評価委員会の評価

2月20日(火)学校関係者評価委員会の委員を招き、公開保育および意見交換を実施した。学校関係者評価委員からの主な評価とそれに対しての園長からの応答は、以下の通りである。

<学校関係者評価委員からの主な評価>

- ・卒園児保護者としては、在園当時から小羊幼稚園の良い所と感じていることは、先生方が子どもに寄り添ってくれる、待っていてくれるところで、わが子のびのびと成長できたことに感謝している。その姿勢が今でも受け継がれていると感じた。
- ・子どもと先生との関係性にはいろいろな形があるが、一人ひとりが楽しく過ごせるのは、子どもが先生との関係に安心感を持っているからだと感じた。子どもがのびのびと遊ぶ姿から、先生の存在が子どもにとって心の拠り所となっているのを感じられた。  
卒園児として振り返ると、先生が温かく寄り添ってくださる中で、自由に発言することができ、その中で、自分でやってみようという自主性が生まれてきた。先生を始めとした大人が待ってくれたからこそ、このような成長ができたのだと思う。

- ・小羊幼稚園の先生は、いつ見ても子どものことが本当に好きで、真剣に遊ぶ姿からこの仕事が好きというのが、保護者にも伝わってくる。一人で遊び込んでいる時には、それを尊重し、無理やり集団の中に引っ張り出さないところも、園の良いところだと思う。

おもつき行事の中で、環境教育の一環として今年度初めて実施された、「おもちのワークショップ」についても、子どもたちは一生懸命取り組みながら、おもちについて興味関心を持ち、理解が深まった様子が見られ良かった。

- ・いつも先生方は全力で遊んでくださる。子どもをよく見てくれるので、何か危ないことが起きたときの先生方の行動も速いと感じるので、安心して預けられる。保護者としては、年長組の一泊保育でわが子がかけがえのない体験をして、「楽しかった」と笑顔で帰ってきたことが嬉しかった。

- ・子どもを赤ちゃん扱いせず、一人の人間として扱っているのが言葉遣いから伝わってきた。先生の言葉遣いがきれいなと感じた。

クラスでの礼拝から朝の会までの流れも、子どもたちをあきさせず、じっくりと行っていたことに、好感が持てた。一つひとつ長めに時間を取り、じっくり余裕を持ちつつ、緻密にカリキュラム作りをされている様子が窺えた。

本日見学した、環境教育のアトリエ活動では、冬の野菜を使った「スタンプづくり」をする中で、野菜の形を花や茎などに見立てて押し、それを絵の一部にしていた。環境教育を通して、子どもが興味・関心を持てるような工夫がなされていて、大変良かった。大人の予想を超える、子どもの自由な発想が見られるのも環境教育の醍醐味だと思う。

- ・礼拝の様子から、生のピアノ伴奏で歌う音楽体験ができることの素晴らしさがある。自由遊びで豊かに遊び、十分に発散しているからこそ、切り替えてお礼拝ができるのではないかな。

子どもたちが徐々に礼拝に入っていけるような礼拝の型があるのが良い。心が整い、満足度の高い人生の原体験ができていないのではないかな。「行事が人を育てる」という言葉があるが、それがまさに実践されていると思う。自分たちは大切にされている、尊ばれると感じられる保育が展開されている。

これからも、先生方一人ひとりが、今のようなみずみずしさとゆとりを持ち続けていけるように、ケアや勤務体制を整え続けていくという視点が大事だと思う。それと共に、小羊幼稚園が築いてきた良いところは、これからも残していって欲しい。

#### <園長からの応答>

- ・今年度は、預かり保育の拡充に取り組んできた。
- ・これからの小羊幼稚園の教育の展望としては、『対話する教育・保育の実践』を大切にしていこうと考えている。そのための教職員の研修も積極的に行っていきたい。
- ・そのためにも、先生どうしが子どもたちのエピソードなどを語り合える雰囲気作りや、より良い教育のために深く話せるような場が必要であると考えている。
- ・働き方改革については、教職員で協力し、ゆとりと十分な体力をもって日々の教育に取り組めるよう、鋭意取り組んでいるところである。